

# 注目! まちの話題



大地震を想定した  
地域防災訓練を実施

10月23日、総和南中学校で地域防災訓練が行われ、市・防災関係機関・地域住民など約450人が参加しました。

訓練は、茨城県南部を震源とする震度6強の大地震が発生したとの想定で、住民が学校に避難を開始。初期消火訓練や防災ヘリコプターからの救出救助訓練、炊き出し訓練などを実施し、各機関との連携や手順を確認しました。

台風などで中止が続き、3年ぶりに実施した地域防災訓練。参加者は、大規模災害への備えと心構えを新たにしました。



▲参加者は、簡易担架や土のうの作り方、消火器の扱い方などを熱心に学んでいました



華むすめが「一日消防署長」  
防火意識の向上を呼びかけ



▲島田署長から委嘱状を手渡される華むすめの殿岡さん

11月10日、秋季全国火災予防運動期間(11月9日～15日)の一環として、古河華むすめのおかあかり殿岡明香里さんが、古河消防署の「一日消防署長」を務めました。消防の制服に身を包んだ殿岡さんは島田署長から委嘱状を受け取り、署員約30人を前に一日消防署長として訓示。市内店舗の立ち入り検査や、JR古河駅で火災予防を呼びかけるチラシの配布など、消防署長として多くの業務をこなしました。

殿岡さんは「乾燥し火災が発生しやすい季節になるので、火の取り扱いには注意してほしい」と話していました。



災害協定締結式  
避難所環境の向上に寄与します



▲市と協定を結んだ結城工場長(左)と土居総務部長代理(右)

10月17日、市とレンゴー株式会社小山工場は、「災害時における物資の供給に関する協定」を締結しました。地震や風水害などの大規模な災害が発生した場合、市の要請で段ボールシートや段ボールケースを供給し、避難所等での活用が可能になります。

住み慣れた住居と異なり、限られたスペースに多くの人が身を寄せる避難所。プライバシー保護のための間仕切りや物資の保管など、さまざまな生活用品として利用できる段ボール製品の迅速な提供により、避難所環境の向上を目指します。